

特集

- ・研究報告
- ・重点課題研究推進校の紹介
- ・研修・研究グループから 来年度に向けて
- ・小栗先生の巡回相談をふり返って
- ・相談支援ファイルの引き継ぎを!

コミュニケーションスキル

特別支援教育・相談GL 宇佐美 好孝

「私はあなたの部下ではありません。」
教職員研修会の講師を依頼するつもり
の先生から、こんな返事が届いた。
交渉の失敗である。慌てて大学の研究
室を訪ね、事の次第を説明し、こちら
のおもいを理解していただき、講師の
承諾を得た。

「ああ、よかった。」
しかし、振り返ってみると、何とも
失礼なことをしたものだと思う。

先生はとてもお忙しい方で、電話を
何度してもつながらなかったのです。講
師の件をメールでお願いした。そのと
きに、四日市市の取り組みを丁寧に説
明し、それを充実するためにぜひ力を
借りたいことや、一度ではなく複数回
指導してほしいことなどを数回のメー
ルに分けて綴った。

こちらの熱意を伝えるつもりで丁寧
に説明したのであるが、熱意を伝えら
れるどころか先生を怒らせてしまっ

た。私がしたことは、人間関係ができ
ていれば先生に受け入れていただけ
たのかもしれないが、会ったこともな
い私が、先生の都合も考えずに無理な
依頼を一方的にしたのであるから、
「私はあなたの部下ではありません
ん。」

は、当然の結果である。このことで、
相手に物事を依頼する際の交渉力を
もっと鍛えていかねばならないこと
を思い知った。

教育支援課では、今年度から、4歳
から8歳までの発達障害等の子ども
とその保護者を対象にした「プロジェ
クトアンダー8事業」を開始した。そ
の中の「友だちづくり教室」では、
友だちとの関係をつくるのが得意で
はない子どもに、ソーシャルスキルト
レーニングを行い、関係をつくってい
く上で必要なスキルを教えている。そ
の教室で支援を行っている、私たち

大人も今一度大切にしなければなら
ないスキルがあることに気づか
される。それらを身につけていくた
めの教職員向けオーバー50の教
室があれば入級したい。

私たち教職員は、子どもや保護者
などに言葉で説明する機会がとて
も多い。その際、相手が理解できる
ような説明ができているだろうか。

また、かわり方が悪くて相手に不
愉快なおもいをさせてはいないだ
ろうか。コミュニケーションの方法
が多様化・複雑化してきた今、失敗
を繰り返さないために、交渉力を含
めたコミュニケーションスキルの
向上が、私たちには益々必要になっ
てきたと思っている今日この頃で
ある。



研究報告

平成21年度、教育支援課で取り組んできた研究を報告します。それぞれの研究にあたり、御協力いただきました先生方及び学校園・関係機関に心よりお礼申し上げます。この研究の成果が、今後の学校園での実践に広く活用されることを願います。

➡御覧ください

各研究の詳しい内容は
教育センターホームページ
教育情報データベース

<http://yec.db.city.yokkaichi.mie.jp/>

(市内小・中学校・幼稚園のみ)
で4月から御覧になれます。



第382集

研修・研究グループ 研修員 生川 恵美

教室談話分析からみるコミュニケーション能力の育成に関する研究 ～グランド・ルール「つながり言葉」を活用して～

話し合いのグランド・ルールとして、「～さんと同じで」「～さんと同じがって」など他者とかかわらせて発話する「つながり言葉」を活用することで、児童の発話総数が増え、児童同士がかかわる発話の割合が高くなりました。また、「～さんの疑問に答えて」というつながり言葉を使って、他者とかかわりながら協働して解決しようとする「探求型」の話し合いへと変容する結果が得られました。

執筆者からの一言

クラスのオリジナルつながり言葉を児童とともにつくり、継続して取り組める環境を整えることがポイントです。



第383集

研修・研究グループ 長期研修員 長田 淳

ICT活用指導力を高めるための効果的な校内研修の在り方に関する研究 ～ワークショップ型校内研修の実践を通して～

授業でのICT活用指導力を高めるための研修計画（研修モデル）を作成し、研修リーダーや情報担当者が中心となるワークショップ型校内研修を行いました。これによって、環境や単元に応じた授業でのICT活用が進みました。教師の知識や経験を生かし、自発的な学習を促すワークショップ型校内研修は、ICTを効果的に活用しようとする授業づくりに有効にはたらくことが明らかになりました。

執筆者からの一言

ワークショップ型校内研修によって、ICTを使った授業の改善策やアイデアが次々と生まれました。



第384集

四日市市適応指導教室 加藤真智子 福井宣行 長谷由香

対人関係スキルを育成する効果的な支援方法の研究 ～適応指導教室におけるソーシャルスキルトレーニングの実践を通して～

対人関係に苦手意識を持つ適応指導教室の通級生に対して、対人関係スキルを身につけさせるためにソーシャルスキルトレーニングを計画的に実施しました。言葉・表情・動作など具体的なスキルを練習し、日常の場面でも実践することで、どんな言葉をどのようにかけていけばよいのかわかったという反応がありました。通級生同士、積極的にかかわっていこうとする姿が見られました。

執筆者からの一言

スキルを練習する場面と日常生活で実践する場面の両方を行うことが効果的です。



重点課題研究推進校の紹介



重点課題研究推進校とは？

- 教育支援課と連携し、「授業づくり」にかかわる研究を推進しています！
- 研究主題を設定し、授業実践を通して成果と課題を明らかにします！
- 研修講座として校内研修会、授業研究会を公開するなど研究成果を全市へ普及しています！

富田中学校

H20年度から

学び合う生徒集団の育成 ～学習行動の評価を通して～

ビデオ研修方式による全教師・全学級の授業公開により、授業を見る目・創る目を鍛え合いました。また、学び合う教師集団と学び合う授業づくりについて取り組んできました。授業改善のための指標としては、ルーブリックを活用した学習行動評価を用いて、学習行動の向上(学び合う生徒集団の育成)を図りました。この取り組みによって、「学び合う授業」を育むための構成要素(課題設定、学習材、グループ活動)が学習行動の高まりと密接な関係をもつことが明らかになりました。



笹川西小学校

H20年度から

自ら進んで生き生きと活動する子どもの育成 ～子どもが動きのおもしろさを感じながら、夢中を継続する授業の創造～

子どもたちが夢中になる姿を継続する授業とは、どのような授業であるのか、また、「題材設定・指導者の働きかけ・子どもどうしのかかわり合い」はどうあるべきかについて、体育科を中心に研究を進めてきました。この取り組みを通して、運動の持つ本来の特性(おもしろさ)に合ったねらいを明確にすること、子どもの好む運動の要素を組み合わせ、動きの感覚を感じやすい運動を取り入れることの必要性が明らかになりました。



中部中学校

H21年度から

自ら学ぶ力が育つ授業づくり —ICTを活用した授業づくり—

校内のICTプロジェクトチームを中心に、ICTを活用した授業づくりを進めています。生徒がプロジェクタから映し出された画像に、自分の考えを次々と書き込み、学び合う姿が見られました。今後はプロジェクトチームの実践を生かし、授業における効果的なICTの活用方法について研究していきます。

小山田小学校

H21年度から

一人一人が生き生きと活動し、 互いに学び合う授業の創造

ICTを授業で活用し、教材や教具を大きく提示することで、子どもたちの集中力が高まり、理解が深まりました。このことは、互いに学び合う授業を創造するうえで、一つの大きな柱であることが明らかになりました。来年度は、こうした取り組みを公開する予定です。



御覧ください。

重点課題研究推進校事業「平成21年度研究報告書」の詳しい内容は 教育センターホームページ 教育情報データベース (市内小・中学校・幼稚園のみ)

<http://yec.db.city.yokkaichi.mie.jp/> で4月から御覧になれます。



教育支援課 研修・研究グループから 来年度に向けて

「教師力向上サポートブック」の活用も二年目に入ります。サポートブックを使って自分を振り返る取り組みはいかがでしたか？「子どもたちの力を高める」ために「もっと自分の力を高めたい！」と感じたのではないのでしょうか。研修・研究グループは、そんな教職員の皆さんの研修を来年度も支援していきます。キーワードは「サポートブックの活用」、「魅力ある研修講座」、そして「でかける支援課」です！



1 「教師力向上サポートブック」を活用した研修を進めます **サポートブックの活用**

- ① ライフステージに応じた教師力の向上をはかるため、「教師力向上サポートブック」を活用して一人一人の教職員が個人研修を進めていけるように支援します。
- ② 講師も含む教職経験3年未満の若手教員に対する研修の充実をはかり、若手教員の教師力向上をめざすため、「若手教員研修」を行います。
- ③ ミドルリーダーの立場にある教員の研修を充実させ、学校のみドルリーダーとしての指導力向上を図る「ミドルリーダー教員研修」を行います。

2 教職員研修講座の充実を図ります **魅力ある研修講座**

- ① 「若手教員」や「ミドルリーダー教員」向けの研修講座をはじめとして、それぞれのライフステージに応じた研修講座を充実します。
- ② 授業づくり研修講座や教育セミナーなど、授業づくりに関する実践的な研修講座を充実します。
- ③ 特別支援教育・ICT活用などの重点教育課題に対応した研修講座を充実します。
- ④ 参加・体験型や実技・演習型の講座など、より能動的で実践的な研修講座を増やします。

3 出前研修を進めます **でかける支援課**

- ① ICT活用のための出前研修を行い、ICTを活用したわかる授業づくりを進めるための支援をします。
- ② 初任者研修や若手教員研修対象者の授業を参観し、研修の進め方や内容等について相談やアドバイスをを行います。



小栗先生の巡回相談をふり返って

本年度から 元宮川医療少年院院長 小栗正幸先生に学校訪問をしていただいております。特別支援教育に関するアドバイスを受けています。本年度は、小学校8校11回、中学校9校12回、計17校23回の学校訪問を行いました。

教職員から

いろいろと詳しく分析して話をさせていただいて、どういう行動を観察してからそう判断されたのかもお話の中で聞かせていただき、納得することばかりでした。



掲示物や、そのときの様子で判断されているようでしたが、子どもの本質を見抜くような言葉もあり、小栗先生のように子どもを見る視点、特に子どもが何に困っているかをまず考える姿勢が重要なんだなと思いました。

アドバイスをお聞きしながら、生徒に対する個人的な対応（支援）と集団の中での対応（支援）について考えさせられました。



私たちの質問に対しても経験、具体例を交えてアドバイスを頂き、大変ありがたかったです。特に、進路のこと、先のことをイメージさせて指導するとよいという話が心に残っています。

小栗先生から



- 多くの子どもたちを対象にするより人数を1, 2名に絞ってケースカンファレンスを行うほうが、より深く掘り下げられる。話し合われた内容は、そのほかの事例でも応用がきく場合が多い。また、話し合いの時、ただ「どうですか？」だけではなく、オーダーを出してほしい。例えば、「こんなことをしたいのだが、どうだろうか」「こういう取り組みをしたいんだけど」という聞き方をしてもらえると深まっていくと思います。
- （支援を）思いつきでするのはよくない。それなりの準備と計画は必要。その計画も必要に応じて変える柔軟性をもたせるように。
- 子ども力の1つだけをひっぱりあげない。学力も大事であるが、それと同様に社会性の習得、保護者対応も必要。全体的なバランスが大事。
- 難しいやり方ではなく、その場からできるアイデアが大事。
- やった以上は、本当に効果があったのかどうかの検証を。

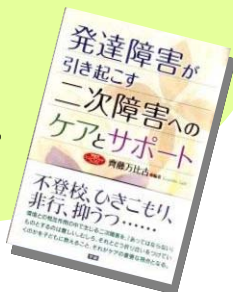
小栗先生分担執筆

「発達障害が引き起こす二次障害へのケアとサポート」

齊藤万比古編著 学研

税別 1,900円

3月にも新刊が出る予定です。



来年度、夏季休業中の研修として、ワークショップ形式を含む3回連続講座を予定しております。

来年度も、小栗先生の巡回相談を予定しています。

相談支援ファイルの引き継ぎを！

年度の切り替わるこの時期は、環境が大きく変化します。子どもたちが安心して新年度を迎えられるよう、相談支援ファイルを効果的に活用しましょう。



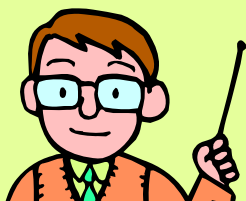
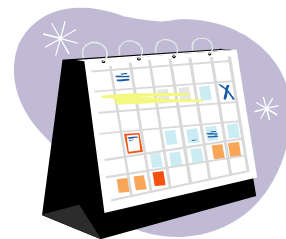
ポイント1 次の担当者に役立つ情報を

相談支援ファイルは全てを埋め尽くす必要はありません。次の担当者に役立つ情報（特徴的なエピソード、効果的な支援の方法、トラブルを予防する方法など）を書き込んでおきましょう。



ポイント2 引き継ぎ日の設定を

新年度の初日には保護者に「お子さんのことは前の担当から引き継いでいますよ。安心してください。」など、こちらから先に声をかけたいものです。そのためには、相談支援ファイルの情報を読み取り、不足しているところは前の担当者に聞いておくことが大切です。校内コーディネーターが調整を図り、引き継ぎ日を設定して計画的に実施しましょう。



今年度より保育園・幼稚園で就学相談を受けたほとんどのお子さんについて相談支援ファイルを作成しています。

早期からの途切れのない支援を行うために御活用ください。